

2019年度

# 事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

学校法人 岐阜済美学院

## 目次

### I 法人の概要

1. 設置する学校・学部・学科等 …… 2
2. 学院設置学校（園）の入学定員及び学生・生徒・園児の状況 …… 2

### II 事業の概要

1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業 …… 6
2. 済美高等学校の事業 …… 15
3. 中部学院大学短期大学部附属幼稚園の事業 …… 21
4. 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園の事業 …… 23

# I 法人の概要

## 1. 設置する学校・学部・学科等

- \* 中部学院大学[1996（平 8）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘、各務原市那加甥田町  
 大学院 人間福祉学研究科 人間福祉学専攻 [修士課程] [博士課程（後期）]  
 人間福祉学部 人間福祉学科  
 教育学部 子ども教育学科  
 看護リハビリテーション学部 理学療法学科・看護学科  
 経営学部 経営学科  
 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科  
 通信教育部 人間福祉学部 人間福祉学科  
 留学生別科
- \* 中部学院大学短期大学部[1967（昭和 42）年 1 月設置] 関市桐ヶ丘  
 幼児教育学科  
 社会福祉学科
- \* 済美高等学校[1918（大 7）年 9 月設置] 岐阜市正法寺町  
 普通科・商業科  
 保育科・衛生看護科
- \* 中部学院大学短期大学部附属幼稚園[1973（昭和 48）年 2 月設置] 岐阜市下土居
- \* 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園[1979（昭和 54）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘

## 2. 学院設置学校（園）の学生・生徒・園児数

2019.5.1 現在

### (1) 学校別総計

(単位人)

学 校 名	学生・生徒・園児数
中部学院大学大学院	15
中部学院大学	1,544
中部学院大学（通信教育部）	561
中部学院大学（留学生別科）	9
中部学院大学短期大学部	318
済美高等学校	769
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属幼稚園	201
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園	163
子ども家庭支援センター（桐が丘幼稚園分室）	8
計	3,588

## (2) 各学校別学部・学科別学生・生徒・園児数

&lt; 中部学院大学 (学部・学年別) 学生数 &gt;

2019.05.1 現在(単位人)

学部・学科	入定員	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	計
人間福祉学研究科						
修士課程	5	0 ( 0)	2 ( 1)	-	-	2 ( 1)
博士課程	3	3 ( 1)	4 ( 1)	6 ( 2)	-	13 ( 4)
計	8	3 ( 1)	6 ( 2)	6 ( 2)	-	15 ( 5)
人間福祉学部						
人間福祉学科	100	106 ( 63)	100 ( 62)	87 ( 43)	94 ( 57)	387 (225)
教育学部						
子ども教育学科	80	86 ( 32)	71 ( 15)	55 (19)	63 (18)	275 ( 84)
看護リハビリテーション学部						
理学療法学科	60	73 ( 45)	74 ( 48)	46 ( 29)	38 ( 23)	231 (145)
看護学科	80	97 ( 19)	81 ( 14)	62 ( 7)	67 ( 17)	307 ( 57)
計	140	170 ( 64)	155 ( 62)	108 ( 36)	105 ( 40)	538 (202)
経営学部						
経営学科					86 ( 78)	86 ( 78)
スポーツ健康科学部						
スポーツ健康科学科	80	85 ( 69)	93 ( 65)	80 ( 67)		258 (201)
合 計	408	450(229)	425(206)	336 (167)	348 (193)	1,559 (795)
通信教育部 (正科生)	100	23 ( 4)	53 ( 14)	93 ( 24)	392 (130)	561 (172)
留学生別科	30	9 ( 4)				9 ( 4)
総 計	538	482 (237)	478 (220)	429 (191)	740 (323)	2,129 (971)

注 ( ) 内は、男子数で内数

人間福祉学科 3 年次編入定員 15 人・子ども教育学科 3 年次編入定員 10 人

2014 年 4 月よりリハビリテーション学部を看護リハビリテーション学部に変更

2015 年 4 月より子ども学部子ども学科を教育学部子ども教育学科に変更

2017 年 4 月よりスポーツ健康科学部スポーツ健康学科開設

留学生(人間福祉学科 34 人, 経営学科 4 人, 修士 1 人, 計 39 人)

< 中部学院大学短期大学部（学科・学年別）学生数 >

2019.05.1 現在(単位人)

学 科	入学定員	1 学年	2 学年	計
幼児教育学科	100	85 ( 2)	93 ( 3)	178 ( 5)
社会福祉学科	80	78 (12)	62 ( 9)	140 (21)
総 計	180	163 (14)	155 (12)	318 (26)

注 ( ) 内は、男子数で内数

幼児教育学科のうち、委託訓練生 25 人 (1 年生 16 人、2 年生 9 人) 含む

社会福祉学科のうち、委託訓練生 29 人 (1 年生 17 人、2 年生 12 人) 含む

留学生(社会福祉学科)21 人 (1 年生 20 人、2 年生 1 人 )

< 済美高等学校（科・学年別）生徒数 >

2019.05.1 現在(単位人)

学 科	募集定員	1 学年	2 学年	3 学年	計
普通科	220	162 (34) [5]	155 (36) [6]	107 (37) [4]	424 (107) [15]
商業科	40	36 (19) [1]	26 (13) [1]	13 (8) [1]	75 (40) [3]
保育科	60	39 ( 0) [1]	40 ( 1) [1]	—	79 ( 1) [2]
女子部普通科 (3 年)	—	—	—	56 [2]	56 [ 2]
女子部保育科 (3 年)	—	—	—	40 [1]	40 [1]
衛生看護科 (女子のみ)	40	33 [1]	35 [1]	27 [1]	95 [3]
計	360	270 ( 53) [8]	256 ( 50) [9]	243 ( 45) [9]	769 (148) [26]

注 ( ) 内は、男子数で内数

[ ] 内は、クラス数

< 中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属・幼稚園（年齢別）園児数 >

2019.05.1 現在(単位人)

	収容定員	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
附属幼稚園	200	0 [1]	71 [3]	69 [2]	61 [2]	201 [8]
桐が丘幼稚園	200	7 [1]	54 [3]	46 [2]	56 [2]	163 [8]
計	400	7 [2]	125 [6]	115 [4]	117 [4]	364 [16]

注 [ ] 内は、クラス数

< 子ども家庭支援センター（桐が丘幼稚園分室）幼児数 > (単位人)

	幼 児
ひよこ	8

< シティカレッジ関（延べ受講者数） >

	前 期	後 期	計
ビジネス系講座	28	20	48
福祉系講習	134	69	203
外国語講座	92	93	185
健康・スポーツ講座	267	279	546
教養・趣味等講座	192	181	373
わかくさプラザ開講講座	117	141	258
キッズ講座	150	132	282
計	980	915	1,895

< シティカレッジ各務原（延べ受講者数） >

	前 期	後 期	計
アインシュタインコース	214	208	422
ソクラテスコース	536	557	1,093
レオナルドダビンチコース	221	227	448
計	971	992	1,963

※アインシュタインコース：特別な分野に興味・関心を持つ中学生までのコース

ソクラテスコース：ゆっくりじっくりと自分独自の大学生活を味わうコース

レオナルドダビンチコース：道を究め専門的な技術や知識を高めるコース

## II 事業の概要

### 1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業

#### 1. 教育方針

中部学院大学並びに中部学院大学短期大学部は、キリスト教福音主義のもと建学の精神を「神を畏れることは知識のはじめである」と定め、医療・介護・教育・福祉・スポーツ健康・経営の各領域に亘る現場経験の豊富な教授陣による教育と、こころ豊かな人間性を育む生活環境を整え、一人一人の学生に対して自分自身の未来を実現するための指導体制を展開している。

#### 2. 事業報告

##### 1) 今年度の取り組み

2019(令和元)年度の主な取り組み

大学及び短期大学部では、引き続き両学長のリーダーシップの下、大学改革を推進した。

まず、大学経営会議においては、2015～2019年度までの基本計画を定めた「第1期中期計画」を総括し、新たに「第2期中期計画」（2020～2025年度）を策定するとともに、前期（2020～2022年度）のアクションプランを定めた。また、IR推進センターでは、引き続き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策への反映を進めた。

次に、内部質保証の充実に向けた学内調査の刷新や教員の教育・研究等の活動を顕在化する取り組みを通して、本学の強みを整理し、施策の選択と集中を図った。

このほか、福祉施設と連携した留学生受入れ事業や介護福祉士実務者研修制度等、本学の人的資源を生かした施策を実施した。

また、今年度末には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、本学においても各種行事、イベント等が中止、延期、縮小となるなど多大な影響を受けた。特に大きな行事の一つである卒業式を、開学以来初めて中止するという苦渋の決断をせざるを得なかった。これを受けて、これに代わる学科別の「学位記授与」を行った。

<大学・短大>

・文科省「高大接続実行プラン」を踏まえた新入試制度改革について取りまとめを行った。また、入学前教育の充実についても検討を重ね、段階的に充実を図ることとした。これらについて高等学校への周知に向け、入試ガイドや学生募集要項の制作を開始した。

・2020年度施行の「高等教育負担軽減施策（授業料無償化施策）」について、関係部署による検討を重ね、本学独自の奨学金や就学支援制度との調整や学内の役割分担等、体制を整備した。加えて、申請手続き等の周知方法についても検討し、受験生および保護者に周知した。

- ・昨年度に引き続き、「私立大学等改革総合支援事業」（タイプ1・3）、「私立大学経営強化集中支援事業」の各種補助金事業の採択を受けた。
- ・スポーツ健康科学部の設置に伴い、1983年、前身の中部女子短期大学商学科が設置されて以来、37年間に渡り多くの優秀な人材を社会に送り出してきた中部学院大学経営学部は2019年度末をもって最後の卒業生を送り出した。
- ・短期大学部では、2018年度に「自己点検・評価」の申請を行い、2019年度に短期大学基準協会の審査を受けた。その結果、「良好」との評価を受けた。これは「建学の精神」を基本とした、本学の掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗していることが評価されたと考えられる。

## 2) 学部（学科）・事務局事業報告

全学的に推進する活動に加えて、各学部・学科においても教育・研究の充実・発展を図るために下記の取り組みを行った。

### (1) 大学

#### (ア) 人間福祉学科

学生募集にあたっては、高大連携により年間19回の高校出前授業の実施、高校福祉科教員との「勉強会」開催、高校生のための「福祉の仕事セミナー」開催、大学ホームページに毎月トピックスを掲載する等、学部の教育活動の積極的な広報を行った。こうした結果、福祉専門職を目指す学生をはじめ、公務員志望学生や留学生など幅広い層の学生を受け入れた結果、2018年度に続いて定員を充足した。

就職実績としては、卒業生88名（うち就職希望者85名）のうち84名が就職し、就職率は98.8%であった。国家試験合格率では社会福祉士39.5%、精神保健福祉士60.0%、介護福祉士77.8%であった。合格率は2018年度を下回り課題を残したが、県・市の地方公務員試験においては岐阜県職員2名を含む7名の合格を出した。

このほか、はじめて開講した「現代福祉マネジメント」では、異業種の地域企業からも受講があり講師と学生、企業からの参加者による活発な意見交換ができた。

#### (イ) 子ども教育学科

教員養成への取り組みとして、基礎学力の向上に向けた基礎ゼミの内容を充実させるとともに新設科目の「教師への道」の内容を深めた。教職センターでは、「教員採用試験対策講座」、「教師塾」、「外部専門講師による教員採用試験対策講座」を開催した。

また、時代に応じた大学教員の実践力、指導力を高めるため、連携協定を締結している北陸学院大学との「保育・幼児教育分野での研究会」を重ねたほか「小学校英語に関する教育フォーラム」「子ども未来セミナー」や教員免許法の改正と教職課程のカリキュラムマネジメントにつ



いて「FD 研修会」を開催した。

このほか他学部履修を活用して中学校教諭二種免許状(保健体育)の資格取得を可能にした。

2019 年度の卒業生は 61 名で、幼稚園教諭 1 種免許 53 名、保育士 42 名、小学校教諭 1 種免許 18 名、社会福祉士受験資格 7 名を養成し、就職実績としては、就職希望者 60 名全員が就職を果たし就職率は 100%であった。このうち、小学校正規教員 1 名、小学校教員(講師) 9 名、幼稚園教諭 4 名、認定こども園保育教諭 3 名、保育士 20 名、児童福祉関連施設職員 11 名が専門職として就職した。また、国家試験対策講座に力を入れた結果、受験者 3 名の内、2 名が社会福祉士試験に合格した。

#### (ウ) 理学療法学科

一年次から検査・測定論、体表解剖学など専門科目を配置し、理学療法士への動機づけを行った。また専門科目や基礎演習、理学療法概論などで、人を対象とする医療人、社会人に相応しい接遇への関心を持つように指導した。各科目において確実に単位取得が可能となるような授業への配慮を行い、単位未修得者への負担軽減を図った。

学外での学びである臨床実習を充実するために、2 年次の臨床実習に対する複数回の実習指導、3 年次の臨床実習指導(前期・後期)と 4 年次の臨床実習指導(前期)を配置した。その中で 3 年次には前期、後期に渡り OSCE(客観的臨床能力試験)を導入し、臨床実習実施の円滑化を図った。OSCE については、学内での実施を重ね、より充実した内容へと変化させた。学科 FD 研修も臨床実習教育をテーマに実施した。

臨床実習と国家試験対策を円滑に進めるため、2 年次より定期的に「達成度試験」を実施し、知識を確認するとともに、その結果を速やかに各学生にフィードバックし、各自の弱点の改善に役立てた。4 年次の国家試験対策では、過去問題を学内で加工した模擬テストにより、各学生の弱点の改善を図りつつ、これまでに蓄積したデータを基にして学生の指導を行った結果、理学療法士合格率 100%を達成した。また、就職希望者の就職率も同様に 100%であった。

#### (エ) 看護学科

看護師国家試験合格率 3 年連続 100%達成を目指したが、全国平均(94.7%)は上回ったものの結果は 96.9%であった。

また、保健師国家試験合格率は 88.9%で、昨年の 77.5%を上回ったものの全国平均(96.3%)を下回った。基盤となる看護師教育を重視し、余力のある学生は保健師課程コースを選択しているが、この国家試験合格率の向上も課題である。

実施している看護師・保健師国家試験対策の主な内容は次のとおりである。

- ①1 年生から 4 年生までを通して「段階的な国家試験ガイダンスの実施」「先輩の体験談を聞く」「国家試験対策の学習方法の指導」「過去問

題集を計画的に配置し解答をさせ知識の蓄積を図る」の指導を行った。

- ② 4年生には教員による国家試験対策を行い、問題の解き方のポイントを、全領域を特論 A（必修）・特論 B（看護専門科目）・特論 C（重点必修問題）に分け、段階的に講義し、業者による必修問題対策や重大疾患などの講座も行った。
- ③ 上記②の講義及び講座の理解度に対する模擬試験を実施し、その結果の分析を行った。
- ④ ゼミ教員が学生の模試結果の振り返りを確認するとともに、理解度を深める対策及び学習生活のフォローを行った。

合格率向上を目指し、学生に身に付けさせる能力の向上、卒業までの進級システム、資格取得など4年間の教育成果を振り返るとともに、満足度・達成度等の測定尺度を検討するため、学生（2019年度卒業生）にアンケート調査を行い、更なる国家試験対策の充実を図り、学生が充実した学習ができる体制の構築を一層進めている。

#### (オ) 経営学科

2017年度から入学生の募集を停止したことにより、2019（平成 31）年度は4年次生のみ構成となった。そこで、年度当初、改めて学部生全員の卒業を実現するための個人指導・支援を徹底するという学部の重点方針を定め、学科会議・FD研修の多くをこれに充てて実践を重ねてきた。

こうした中、79名の学部生の将来にわたる的確な進路指導と、学部の伝統を大学の今後に残す事業の確立を目標として、従来にも増して積極的な活動を行った。

前者については、公務員5名を含み全員が希望の就職を果たし、後者については、経営学部の前身である短期大学部経営情報学科時代から十数年間の伝統を誇る「現代マネジメント研究」を全学的な選択履修の下に、毎回学生130余名、市民約60名の参加を得て実施することができた。

#### (カ) スポーツ健康科学科

開学部3年目を迎え、来年度完成年度を迎える。学生募集に関してはこの4年間すべて定員を超えての入学生数であった。学生募集に関しては愛知県やその他の県からの出前授業の要望にも積極的に応じ、学部の広報に努めた。

教育面では教育実習を含め、就職活動が間近に迫る中、より専門性の高い教育に移行した。その中で学生には、より専門性が高い知識や考え方等を学ぶべき体制を確立して学生の教育を行った。具体的には、教育実習のための事前教育、体育科教員就職対策として体育科教員特別演習の授業を開講し、教員に必要な一般教養・教職教養等の充実を図る講義を行った。また就職活動に対してもキャリア支援では、学生に対して早

期に就職への意識を高揚させるために講習会や説明会を行った。職業人として、また社会人として身につけなければならない知識・技能などについての講演会を行った。

現在は学部の将来構想として、学部完成年度後のカリキュラムの全面的な見直しを行っている。カリキュラム改革により、柔軟性のある授業科目の選択が可能になり、学習の方向性もより明確であるため、学習意欲の向上が図れるよう改革を行っている。

## (2) 短期大学部

### (ア) 幼児教育学科

2020年度の入学者数については学科定員100名に対して83名に留まる結果となったが、入学生の質の確保については、多様な入試の実施により担保できた。特に、離職者訓練生の導入後3期目の入学生(16名)は、成績上位を占めるものが多く、本学科の保育者養成の実績が評価されていると思われる。

就職については、就職希望者全員が内定し、18年連続で就職率100%を達成した。これは、教職員一体となったキャリア支援の証と考えられる。

次に、2018年度末に、初めての試みとして入学前研修を実施したことにより、2019年度入学生の大学生活への期待を高めることができた。2020年度入学生についても入学前研修の開催を計画(2020年3月13日)したが、新型コロナウイルス感染の恐れから、中止を余儀なくされた。

次年度も、入学定員の確保に一層努力するとともに、保育士養成並びに幼稚園教諭養成課程の新課程に伴う授業環境を整えていきたい。

また、2019年度も連携協定を締結している各自治体との事業を、要請により引き続き実施した。2020年度についても、情勢が整えば引き続き実施したい。

### (イ) 社会福祉学科

学生募集活動では、学科定員80名に対して83人の入学者を確保し定員充足を果たした。内訳では、2019年度に美・デザイン、医療事務両コースで7名だった入学者が16名となり、特に「医療事務」の入学者が増加した(3名から10名)。介護福祉コースでは留学生32名の2020年度入学が決まり、定員確保に貢献している。留学生のほとんどは介護事業所の支援を受けており、学習と生活支援の両面で、事業所との連携強化に取り組んだ。

介護福祉士国家試験については、1年次からの体系的な学習計画とゼミ単位での個別支援を強化し、合格率97.3%(留学生を除くと100%)を達成し、前年度の86.7%を上回った。

就職については、就職を希望する学生全員がこれを果たし、17年連続で就職率100%を達成した。

### (3) 事務局

事務局においても、上記の全学をあげての取り組みに真摯に取り組むとともに、学部・学科と連携して教育・研究等の向上に努めた。

#### (ア) 総務部

総務課は、2016年に策定した「関キャンパス施設修繕計画」に基づき、また各務原キャンパスは2015年に策定した「施設改善計画事業」に基づき、それぞれ経年劣化した校舎等建物、電気・機械・水道設備等について、危険度、緊急度が高い箇所から修繕を実施した。また、教職員の健康管理では、全ての職員を対象に「健康診断」及び「ストレスチェック診断」を実施し、疾病の早期発見、早期治療に努めることで、教職員の”こころ”と”からだ”の健康保持に努めた。また、今年度も企画戦略課とともにSD研修の更なる充実を図り、教職員のスキルアップに繋げた。

会計課は各種補助金の獲得に向けた情報の収集と学内への情報発信を行った。また、四半期ごと予算執行状況の把握をするとともに各部署へ周知するなど予算管理の徹底を図った。

生涯学習課は、関市、各務原市などと連携し、市民のニーズに応えた幅広い分野の講座（347講座）や市民セミナー、講演会を開講した。また、介護福祉士実務者研修や教員免許更新講習のほか、岐阜県との連携による介護人材確保・育成支援事業などを実施し、社会貢献・地域貢献に努めた。さらに、スポーツカレッジを令和元年9月26日に設立し、本学特有の知的資源・人的資源を活かした地域貢献事業（障がい者スポーツ教室をはじめとした各種スポーツ教室の開催、優れた競技能力を有する学生・教員の派遣）の展開を図った。

#### (イ) 企画部

企画戦略課は、文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」「私立大学経営強化集中支援事業」等の各種補助金事業の採択に向けて、学内関係各所間の調整を行った。また、2020年度より施行予定の文科省「高等教育負担軽減施策（授業料無償化施策）」への対応準備に向けて情報収集・学内周知等の調整を行った。IR推進センターにおいては、昨年度に引き続き客観的データに基づく分析と点検を通して、具体的な施策の反映に取り組んだ。

教育研究支援課は、前年度に引き続き情報支援としての情報ネットワーク基盤の整備・運用及び学内システムの導入支援を行った。具体的には、証明書発行システムの入替及び新発行機の設置、新学生ポータルシステム導入後の運用に向けた協力支援に取り組んだ。また、教員・事務職員全員の貸与PCの入替え準備等に取り組んだ。教育研究支援については、教員の教育研究活動への支援強化を図りつつ、研究倫理に関する学内環境の整備を実施すると同時に、引き続き外部資金の獲得及び研究

助成情報の発信に努めた。さらに、全学部学科のFD活動の活性化に対する支援を強化しその活動の定着を図った。また、大学間協定校関係では、大学は北陸学院大学と短大は新潟青陵大学短期大学部との研究交流の具現化を図り、教職員共通のSD研修等の具現化に向けた検討を推進した。

#### (ウ)教務部

教務課では教育改革を推進するため必要な情報収集・取り組みの整理及び学習意欲を喚起するシラバスの整備など、教職員・学生への効果的なサポートを行った。特に、教育学部の「小学校・中学校教諭コース」に中学校教諭2種免許（保健体育）の取得、社会福祉学科美デザインコースの幅広い就職を見据えたカリキュラムを整備した。

また、実習センターは、実習種別の拡大化、新カリキュラム移行に伴う実習体制の複雑化に伴った支援、インターシップ・看護学実習などを円滑に進める実習システムの見直しを図った。通信教育部事務課は、定員の充足を達成するため、教育、地域戦略、教育方法、広報の4つのセグメント別に施策を検討し、社会人の学び直し機会の提供に向けた改善策を検討した。

#### (エ)学生支援部

学生課は、学生一人一人が生き生きとした学生生活を送り自立した社会人となれるよう課外活動、大学行事等への支援を進めた。また、学修上の様々な課題を抱える学生、障がいのある学生、経済的困難を抱える学生等に対して関係部署と情報の共有を図りながら組織的で迅速な学生支援をすすめた。

キャリア支援センター事務課は、全ての学生の健全で自立的な職業観の育成を図りながら、一人一人の学生に対応するきめ細かな就職支援を進めた。その結果、公務員について大学・短期大学部合わせて、5年連続30人以上が合格するとともに、大学は全学科平均で就職率99.4%、短期大学部幼児教育学科18年連続、社会福祉学科は17年連続の就職率100%を達成した。

また、今年度も学生たちが課外・クラブ活動において多くの実績を残した。ゴルフ部は、文部科学大臣杯争奪日本学生王座決定戦で、スポーツ健康科学部3年の圓角有希選手が接戦を勝ち抜き、優勝を飾った。この功績により清流の国ぎふ栄誉賞を受賞した。さらに、経営学部4年の中山絹也選手が日本プロゴルフ協会（PGA）のプロテストに合格した。

硬式野球部の活躍も目覚しく、激戦の秋季岐阜学生リーグで無敗の完全勝利を果たし、2季ぶり15度目の優勝を飾った。続く秋季東海選手権では、延長の末サヨナラ負けを喫し2年連続の明治神宮大会出場は叶わなかったが、来年の活躍が多いに期待される。発足2年目の空手道部は、昨年に続き男子・女子それぞれの団体の形と組手、全4種目で全日本大学空手道選手権出場を果たし、着実な成果を残した。一方、文化系

でも経営学部4年の塩崎善治さんが難関の公認会計士試験に大学生現役合格を果たし、経営学部最後の年に有終の美を飾った。

#### (オ) 入試広報部

2020年入試(2021年4月入学)実施に向けて、現行の入試制度の見直しを行い、アドミッションポリシーならびに学力の3要素に基づいた新入試制度における入試日程ならびに選抜方法を整備した。また、授業料無償化に関して、案内文書の送付や保護者からの問い合わせ対応など具体的な対処について他部署と連携して取り組んだ。

学生募集においては、WEB出願システムの導入及び受験料納入方法の見直しのフレームづくりのため、取扱業者の選定に着手した。また、高校と連携した取り組みとして岐阜県のふるさと教育事業を活用した複数の高校のバス見学の受け入れを行った。高校からは大変好評で2020年度も受け入れの要請がある。さらに、大学教員との協力体制を強化し、高校独自または業者を介した出張講義の依頼に積極的に対応した。

これら中・長期的な取り組みだけでなく、媒体広報やオープンキャンパスの工夫により志願者数が増加し、大学においては入学定員を充足することができた。

#### (カ) 大学広報室

大学広報と入試広報の一体的な取り組みとして、ホームページリニューアルのフレームづくりのため、取扱業者の選定に着手した。また、これまで大学広報室運営会議(前身のブランディング室会議含む。)で検討してきた内容(特に広報の一元化)など大学のブランディングの強化に向けて具体的な取り組みをスタートさせた。

#### (キ) 国際交流・地域連携部

地域との連携をさらに強化するため、岐阜市、株式会社長良川鉄道と新たに連携協定を締結した。また、活動実績と課題を共有し連携推進を図るため全連携先を対象に「連携先との意見交換会」を開催した。学生による地域貢献事業やふれあいコラボワークショップなどの助成事業により、地域での貢献活動が全学科において精力的に実施された。また、地域からのニーズが高い「コミュニケーション力」をテーマに地域公開講座を開催した。

岐阜県健康福祉部からの委託事業として、2018年度からの継続事業2件「福祉の仕事就職・ミニフェア開催業務事業」「外国人介護人材受入環境整備事業」に加え、新規事業「外国人介護人材受入対策調査検討事業」の計3件を実施した。

国外における地域課題への取り組みとして、JICA草の根技術協力事業パートナー型「ダナン市・グハンソン地区の地区病院を中心とする老年ケア・プログラム定着と人材育成事業」を2018年度から引き続き遂行している。

交流協定を締結しているフィリピンのミンダナオ国際大学から2名の

短期留学生を受入れ（2019.10.9～2019.10.23）、社会福祉学科を中心に異文化交流、介護や幼児教育など学科の講義参加、教員宅でのホームステイ、介護福祉施設の見学などを実施した。

海外研修では、ベトナム研修（3月）をホーチミンからダナンまで活動範囲拡大による計画を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大によりやむなく中止した。また、ハワイ研修についても、参加希望者が少なかったため中止となった。

きめ細かな留学生支援を行うため、関係学部・学科の教員と連携して、留学生を支援いただく介護施設等の担当者との「連絡会」を定期的に関催し、学習状況や生活支援などの取組みについて情報共有に努めた。

2019年度は61名の新入留学生を受け入れた。出身国の数も増加したため、環境を整備するとともに、交流イベントなど様々な行事を実施し、よりきめ細やかな支援と指導に努めた。

#### (ク) 図書館事務課

学生の要望に伴い、関キャンパス図書館の3階、雑誌架の閲覧机に衝立を設置し、一部の机には、電源タップを追加した。これにより前の席の視線を気にせず集中できると好評であり、持ち込みPC等の電源も確保できるため、他にも電源タップの増設をしてほしいという声が寄せられている。

学生選書ツアーでは、教員と学生がともに楽しく選書する姿がTVでも放映され、次年度に参加したいという声が多くなった。

夏休み期間のオープンライブラリーは、高校生だけではなく、中学生も対象とし、関市、各務原市の広報にも掲載してPRした結果、利用者の増加に繋がった。

関市立図書館では、前回の指定管理5年間の実績が評価され、2020年度から2024年度までの指定管理が更新された。年間来館者数は前年度をやや下回ったが、貸出冊数、貸出者数は増加した。今年度は、学校連携やイベント・講座の開催に加え、関市からの依頼で学校電子図書館の開設、わかくさ・プラザ20周年記念事業として古地図の展示及び古地図の楽しみ方の講座を開催するなど、特色ある図書館運営に努めた。

## 2. 済美高等学校の事業

### 1. 教育方針

福音主義キリスト教に基づく学校教育を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てることを目指しています。教職員にあつては、生徒の安全と学力保証を第一に考え、危機管理意識を共有しつつ、教育目標を明確にして、その具現化に努めるとともに、教育専門職としての矜持を持ち、常に自己研鑽に努め、生徒の学力保証と進路希望の実現に邁進しています。

また、生徒にあつても進路希望の実現を目指し、各教科及び学科・コースの目標を達成するため、主体的に考え、判断し、行動することなどを通して課題解決することができるように努めています。

### 2. 教育活動計画

#### 【普通科】

#### 1) 「選抜特進」「特進」

「選抜特進」「特進」の2つのコースでは、「学力をつけて、一般入試で四年制大学へ進学する」という方針を掲げ、進学指導のしくみの構築に専心しています。この数年は、校長先生の進路講話を生徒及び保護者向けに何度も実施して進学に対する意識を育てること、模擬試験を有効に活用して学習を継続すること、さらに平日17時35分まで、済美塾を開講するなど教科指導に力を入れてきました。その成果として今年3月の卒業生30人のうち1組の「選抜特進」18人から8人が国公立大に合格しました。(昨年は14人中5人)また、2組の「特進」からも3人が公立大に合格しています。国公立大合格数11の内訳は名古屋大1、岐阜大3、琉球大1、高崎経済大1、都留文科大1、山梨県立大1、北九州市立大1、新見公立大1、公立鳥取環境大1です。私立大では、同志社大1、南山大4、愛知大8、名城大8、中京大8、愛知学院大19と多くの生徒が合格し進学しています。名古屋大学理学部現役合格、岐阜大学教育学部3名合格は、大きな成果であり、本校の指導のレベルが上がったことを示しています。

#### 2) 「総合進学」「健康福祉」「生活文化」

普通科の「総合進学コース」においては、基礎学力を定着化し、国立大学や地元私立大学等への進学を目指し、また「健康福祉コース」においては、健康・福祉の基礎・基本を身につけ健康福祉系の大学進学や就職などを目指します。

「生活文化コース」では、食物・ファッション等の基礎・基本を身につけ家政科系の大学進学や就職などを目指しました。

その結果、2019年度においては、中部学院大学をはじめ四大に66名の合格をしています。また、推薦入試では、信州大学、新潟大学、関西学院大学に合格するなど着実に学力の向上を図ることができています。中部学院



大学短期大学部をはじめ、短大には22名が合格しました。さらに、推薦入試において、岐阜市立女子短期大学に合格することができました。主な進学先は以下の通りです。

<大学名>

- ・中部学院大学・信州大学・新潟大学・同志社大学・関西学院大学
- ・明海大学・名城大学・愛知大学・愛知学院大学・愛知淑徳大学
- ・金城学院大学・日本福祉大学・椋山女学園大学・至学館大学・星城大学

### 【保育科】

学科教育の特色を明確にし、幼児教育・保育系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来保育の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。1年生では中学教育と高等学校教育の円滑な接続を図るとともにキャリア教育の一環として保育体験学習を1日、2・3年生では保育実習を5日間実施し、将来、幼児教育、保育に関わる者としての態度を育てることを目指しました。その結果、保育技術検定1級に3年生25名、2級に37名（3年生1名、2年生36名）、3・4級に1年生39名が合格しました。また、進学においては、中部学院大や日本大、北翔大などの四大に11名（28%）、中部学院大学短期大学部などの短大に26名（65%）が合格しました。

### 【商業科】

新しい学科教育の特色を明確にし、経営・情報系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来商業の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指しました。

また、進化するICT社会に対応できる簿記やパソコン等、ビジネスに関する基礎的な知識と技術等を習得し、21世紀の社会・経済活動等に必要能力や資質などについても養うことを目指しました。

進路については、富山大の国立大学をはじめ、愛知大、愛知学院大等への合格を達成しています。簿記教育強化策の徹底により、全国商業簿記検定1級(簿記履修者)は、2年連続全員合格、日商簿記2級は2年生合格者4名、3年生4名を輩出することができました。さらに、資格取得による難関大学等への合格を目指し、放課後などの補習もほぼ全員が参加し、確実に学力が身につけていることが実感できるようになりました。

### 【衛生看護科】

看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、准看護師試験受験資格を得るとともに、将来、看護師となるための資質・能力・態度や豊かな人間性の養成を目指しました。今年度も、8年連続で准看護師試験に全員合格しています。進学先として、四大へ6名、短大へ1名、高看へ17名進学しました。

### 3. 広報活動

#### 【入試広報】

中学生及びその保護者や中学校の教職員等に、高校生としての学力を保証すると同時に生徒の進路希望を確立し、それを確実に実現する本校教育の良さを理解していただき、本校への信頼を高めています。又、生徒や教職員の活動成果を適時適切に広報し、入学した生徒が着実に成長している姿を理解いただく中で的確に生徒を確保し、入学定員を充足するよう努めました。入試広報活動に対して全教職員の一致協力体制をより強固なものとするとともに、新たに関・美濃地区で説明会を実施、さらに岐阜・羽島の各地区においても、学校説明会の内容を充実し、学校教育の成果を直接PRしました。

なお、他校の動向や受験環境等の変化の中での活動となりましたが、**岐阜地区では391名減、県全体では822名減の中、志願者数1,084名(前年比90名増)、入学者数291名(前年比22名増)**は、ともに増員という結果となりました。

### 4. 学校教育改革計画

#### 【宗 教】

計画的な指導を通して、本校生徒に相応しい豊かな心を育てるべく、求める生徒像を学年別に具体的に示しました。また、聖書・礼拝指導の内容の充実に努めました。

#### 【学校経営】

教職員が一致協力・連携し、教育専門職としての誇りを持ち、教科指導、生徒指導、部活動指導等に専念することにより、学校教育目標が達成できる「信頼される学校づくり」に努めました。

#### 【学業指導】

各教科・学科・コース内の連携を密にし、本校独自の学び直し指導の確立を図りました。また、生徒の実態に即した個に応じた指導の徹底を図り、学力保証と進路保証に努めました。さらに、授業の質・内容等の充実に図り、2020年度から始まる新しい共通テスト「大学入学共通テスト」に対応した学業指導体制の確立にも昨年度に引き続き努めました。

#### 【生徒指導】

全教職員の共通理解のもと、教科、特別活動、総合的な学習の時間、部活動の指導における生徒指導を徹底し、さわやかな挨拶の励行、端正な身嗜みの保持、交通安全マナーの遵守などの基本的な生活習慣の確立に努めました。また、学校・学級への適応指導と教育相談を充実し、生徒相互の望ましい

人間関係を確立し、生徒一人ひとりが学級の一員として目標を持って、遅刻や欠席及び早退の無い、積極的な学校生活を送れるよう指導に努めました。長期休業期間前には HR 活動において男女交際の在り方や性に関する指導を行い、スマートフォン・タブレット等の情報機器の活用については外部講師を招くなどして計画的・組織的・効果的な指導に努めました。

### 【進路指導】

2019 年度は名古屋大学・岐阜大学(3 名)を筆頭に国公立大学への合格者数 15 名、四大合格者数 219 名でした。国公立型の選抜特進コースからだけでなく、文系 3 教科型の特進コースからも 3 名、2 年連続で商業科からは富山大学へ 2 名の合格者が生まれました。また、総合進学コースからも推薦入試制度を用いての国立大学(信州大学、新潟大学)合格者を輩出するなど、本校独自のキャリア教育が花を咲かせた 1 年となりました。卒業生 239 名の進路内訳は、四大へ 121 名、短大へ 50 名、高専へ 17 名、各種専門学校へ 22 名、就職 25 名、その他 4 名となりました。なお、中部学院大学へは 27 名、同短期大学部へは 30 名が進学しています。この 5 年間で四大進学率が 2.7 倍に増加し、済美高校は、名実とも『進学校』へとシフトしています。

### 【保健厚生】

生徒の保健・健康・安全指導を計画的に実施し、生徒の健やかな心身を育むと共に、毎日の清掃美化活動等を徹底し、美しい教育環境を実現することに努めました。

具体的には、生徒・職員双方に対する救急救命法講習会、災害への適切な対応が出来るような防災教育と共に、自他の生命を守るため、被災地域の様子やボランティア活動等、実際の体験を講話として聴き、有事の災害に備えることができるような具体的な避難訓練の実施、関係機関等との協力、健全な保健・厚生に関わる教育活動などの実践を目指した学校安全衛生委員会、学校保健安全委員会を実施しました。

### 【図 書】

生徒の、みずみずしい感性と豊かな人間性を育てることの一助として、図書整備と生徒の読書活動の推進に努めました。具体的には、クラス別に新入生向けオリエンテーションを実施するなど、読書指導の充実を図り、生徒の図書館利用度を高めることに努めました。また、学校祭での「古本市」の開催や夏休み後の「読書感想文コンクール」の開催、「新刊案内」・「図書館だより」・図書委員会による「らいぶらりい」の発行など、図書館活動を積極的に展開しました。なかでも、毎月のテーマごとに陳列を替える、いくつかのディスプレイが好評で、陳列したのから貸し出されることが多くなっています。

また、今年度は本校の生徒のニーズにより適合したものとするため、約 10

年ぶりに「済美の本 100 選」の改訂作業に着手し、2020 年度からの本格運用に備えました。

### 【特別活動】

キリスト教主義教育の基本の上に立ち、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動などにおける「指導目標と計画」を明確にし、指導内容及び指導方法のさらなる改善に努めました。また、生徒会役員選挙やホームルーム活動では、主権者教育を念頭に置き、生徒の公民的な資質の育成や個性の伸長を図り、学校生活における存在感や学校への帰属意識を高めるように努めました。

### 【渉外】

教職員と生徒・保護者・同窓生との連携を深めることを目的として、主に以下のような取り組みを行いました。総会をはじめとして、PTA活動に対する保護者の出席率が上昇、署名についても目標数を達成し、例年以上の充実した成果を挙げることができました。

- ① P T A 総会出席：334 名（出席率 43.5%、前年比+28 名）
- ② P T A 郊外研修（同志社大学）参加：40 名（前年比+5 名）
- ③ 私立高等学校補助金増額請願署名数：39,620 筆（前年比-440 筆）
- ④ 『済美祭』 P T A 食品バザー：2,030 食完売（前年比-72 食）
- ⑤ P T フォーラム『1.2 年保護者進路説明会』出席：140 名（前年比+47 名）

入学式、卒業式などの式典、各種行事においては、本部役員が率先して駐車場誘導案内、受付などの役割を担い、教職員、保護者が連携して行事を運営する体制が整いつつあります。

### 【部活動】

今年度は空手道部、バレーボール部、新体操部、ライフル射撃部、陸上部、スケートのフィギュアで全国大会に出場しました。特にバレーボール部は2年連続での「春高バレー」出場を果たすことができました。部活動全般にわたり活動内容も充実しています。運動部だけでなく文化系も毎年地域貢献を果たすための活動を行い活躍しています。活躍の状況等については随時ホームページでお知らせしています。

## 5. 環境整備状況

2019年度は、創立100周年を記念して実施した大規模改修（玄関及び体育館の全面改修、体育館照明のLED化、北舎南側の庭園改修など）に引き続き、老朽化している北舎東側の屋上・外壁等の防水、駐輪場の改修など施設面の整備を実施しました。また、本県に唯一設置されている「衛生看護科」に、看護臨地実習等を充実させるために必要な「介護用ベッド」「分娩シュミレーター」「実習用モデル人形（大人用や新生児用）」などを

購入し、授業での実践的な実習に役立っています。さらに、北舎コンピュータ室の「パソコン」全てを更新し、授業や部活動などで活用しています。加えてタブレット端末も今年度さらに35台を追加購入し、ICT教育の推進に一役買っています。

1) 教育用機器備品等の整備

タブレット端末の購入(35台)	1,110千円
コンピュータ教室のパソコン更新(44台)	10,008千円
衛生看護科備品(万能型介護実習モデル人形他)	3,969千円
調理室冷凍冷蔵庫	300千円
看護職員室エアコン設置	432千円
など	

2) 施設の修繕・整備

北舎東側外壁・駐輪場改修工事	20,445千円
南舎吸引式冷温水発生装置(冷暖房設備)修繕	789千円
弓道場改修工事	562千円
など	

### 3. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部

#### 附属幼稚園の事業

##### 1. 教育方針

- 1) 新教育要領を踏まえ、建学の精神であるキリスト教を深く理解し、神と人とを愛する豊かな心を育てる。
- 2) 体験やふれあいを基にした自然体験活動や造形・音楽表現活動に力を入れ、園児一人ひとりの個性や感性の伸長に努める。
- 3) 教職員研修を通して教師の資質を高め、園児一人ひとりの安全と保育に責任を持って努める。また、保護者や地域社会の人々から信頼を得られるような子育て相談を充実させ開かれた幼稚園を目指し、情熱と知恵をもって保育に当たる。

##### 2. 教育目標 『心豊かな たくましい子の育成』

##### 3. 園児の募集及び確保

- 1) 特色ある保育の推進
  - ・教材・教具の整備・図工、体育、英語教育の充実・教職員研修の充実
  - ・岐阜市私学振興会（特色ある園づくり）への申請
- 2) 開かれた園づくりの充実
  - ・親子わくわく教室の充実 ・にこにこプラザ事業の充実
  - ・小学校との連携強化 ・福祉施設への訪問
  - ・子育て相談ふれあいサロンの実施 ・夏季休業日の希望有料保育の実施
- 3) 保育環境の整備充実
  - ・打ち込み井戸及びポンプ取替工事 ・北側駐車場補修工事、遊戯室天井修繕 ・2階保育室天井扇風機取替 ・保育室倉庫ドアチェッカー取替
  - ・アップライトピアノ購入 ・飼育・栽培関連等の管理の充実 ・砂場、築山、植木の補修整備 ・新規パソコン購入
- 4) 広報活動の充実
  - ・カラー印刷機の充実 ・ホームページの充実 ・月刊雑誌での広報

##### 4. 安心・安全の推進

- 1) 通園バスの安全運転管理
  - ・安全に備えた指導・管理の徹底 ・車検・点検等の徹底 ・安全運転管理  
理部会研修
- 2) 食育の安全と充実
  - ・安全な食材、食料品の確保 ・アレルギー対応 ・食器・調理用具の充  
実 ・食育の充実 ・害虫駆除及び衛生管理の充実

### 3) 園生活の安全確保と事故防止

- ・遊具の安全点検と整備
- ・バスロケーションサービスの充実
- ・緊急メールシステム導入

## 5. 施設設備及び機器備品等の予算措置

・環境の整備（打ち込み井戸及びポンプ取替工事）	8 6 6 千円
・環境の整備（北側駐車場補修工事）	2 5 0 千円
・環境の整備（遊戯室天井修繕）	1 9 8 千円
・環境の整備（2階保育室天井扇風機取替）	1 3 5 千円
・環境の整備（保育室倉庫ドアチェッカー取替）	2 3 千円
・環境の整備（アップライトピアノ購入）	4 7 5 千円
・環境の整備（砂場・築山・植木の補修整備）	5 3 3 千円
・環境の整備（新規パソコン購入）	1, 3 9 0 千円
・衛生管理の充実（調理室 移動シンク取替）	1 2 7 千円
・衛生管理の充実（調理室 換気扇、防虫網取替）	3 9 千円
・衛生管理の充実（調理室 フード、換気扇清掃）	6 4 千円

## 4. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部

### 附属桐が丘幼稚園の事業

#### 1. 教育方針

- 1) キリスト教精神による宗教的情操を養い、「人を愛するやさしさ」「自分で考えるかしこさ」「創りだすたくましさ」を育てることを目指す。
- 2) 豊かな自然や広い園庭を活用して、豊かな感性とたくましい体の育成に努める。
- 3) 楽しくのびのび生活する中で、きまりの大切さや生活に必要なマナーの定着を図る。
- 4) 一人一人に寄り添い、誠意と愛情をもって保育の実践に努める。

#### 2. 教育目標 「なかまとともに 豊かな心とたくましい体をはぐくむ子」

- ◇元気に遊ぶ子（自立）
- ◇仲良く助け合う子（共生）
- ◇見つけ創り出す子（創造性）

#### 3. 重点施策：中期計画具現に向けての人的・物的環境の整備

- 1) 特色ある幼稚園づくり（大好き活動）
  - ・自然遊び大好き・・・感性を育む表現活動
  - ・外遊び大好き・・・体づくり（体力測定）・友だちづくり
  - ・リズム遊び（歌声）大好き・・・豊かな心を育む音楽活動
- 2) 社会の変化に対応する教育
  - ・新幼稚園教育要領の趣旨（10の力）を踏まえた環境構成の工夫
  - ・5領域における「英語」「福祉」「絵本」の位置づけ明確化
  - ・ICT支援システムの活用研究（校務のスリム化・保護者連携）
- 3) 安全・安心の推進
  - ・緊急メールシステムとホームページの活用
  - ・遊具や砂場等の保守点検の継続及び耐震補強（ロッカー等）の点検・修理
- 4) 保護者のニーズに応える保育
  - ・アンケートによる保護者ニーズの把握と子育て相談の充実
  - ・親子行事やPTA活動の見直し（スクラップ&ビルド）
- 5) 地域における子育て支援センター機能の充実
  - ・0～1歳児対象の「びよママ事業」の拡充
  - ・子育てファミリープラザ「コミママ事業」の見直し
- 6) 広報活動（未就園児対象事業・チラシの配布等）の充実



#### 4) 施設設備及び機器備品

・屋上防水・園舎東壁改修工事	3, 748千円
・ICT支援システムの導入	2, 224千円
・空調機更新工事2カ所(遊戯室・保育室)	1, 100千円
・プール廻りフェンス設置工事	659千円
・AED設置(更新)	259千円
・パソコン3台更新	368千円
・ふじ組及び職員室カーテン設置工事	376千円